

白川わくわくランド ニュース

第24号

発行

●白川流域住民交流センター
(白川わくわくランド)
〒860-0854
熊本市東子飼町8-55
TEL・FAX (096) 346-5454
ホームページアドレス
<http://www.wakuwaku-land.com>
メールアドレス
wakuwaku@wakuwaku-land.com

開いてみてくださーい！ わくわくランドのホームページ

リアルタイムで見る白川

わくわくランドの寺子屋や利用状況をチェック

新しい話題を写真で紹介

メダカの観察日記実施中

「白川わくわくランド」で検索しますと左のトップページが出ます。常時更新されていますのでお楽しみに！

(前略).....
わたしの町には、有名な鼻ぐり井手があります。白川わくわくランドに行き、白川への気持ちがかかりました。わたしは「生き物で水のおかげ方が分かる」ということを初めて知りました。
そうして、どんな白川を知っていくうちに、今まで白川にきょうみのなかった私は、白川で一生けんめい生きる生き物を見て、
「白川は、みんなが生きるために大切な所なんだなあ」と思いました.....(後略)

菊陽南小学校4年
総合的な学習
「白川のひみつをさぐるう」から

「わかった！」
「わかった！」



河口から数えて 白川の橋⑳
20番目の橋。 **龍神橋**
橋長は75.16m、
幅は車道3.60m、歩道(上流側)1.50mの道路橋。
橋の完成は、昭和33年で、橋の架設と一緒に上水道管も敷設され、翌34年には健軍水源地から立田山配水池へ上水道が送られた。
昭和20年代までは、すぐ上流に渡し船があったという。また、龍神橋の上から、上流右岸側に石刻がみられる。



下流左岸側からみる龍神橋。上水道管が見える。

白川わくわくランド寺子屋

「白川下流大井手沿いを歩く」
渡鹿堰から井手の口まで

期日 平成十八年四月二十二日 土曜日
十時～十四時

講師 熊本地学会員 村上 能治 先生
参加者 二十五名



本年度第一回目の寺子屋「白川下流大井手沿いを歩く」を実施しました。当日はあいにくの雨でしたが、春雨にうたれる大井手も情緒溢れるものでした。
今回の寺子屋は、白川の利水、大井手の歴史・文化

などが中心の学習です。

渡鹿堰上流から菅原神社（水分神社）、取り入れ口から竜神橋際までは大井手（白川）の水を追いながら歩きましたが、その後、少々雨脚が激しくなり、バス移動での学習になりました。

水道端公園から一の井手取り入れ口、熊本鎮台司令長官 種田政明旧居跡、二の井手、三の井で取り入れ口、大井手に残る石橋、井手の口と進みました。

昼食後は、わくわくランドで、講師の村上先生からユーモアを交えながらの補足説明をいただきました。たくさん質問も出て、第一回目の寺子屋は、盛会に終わりました。

白川から大井手への取水口（左側）



菅原神社は加藤清正が造った渡鹿堰の守護神（水分神）と早鷹天神の分身を祀った神社。この地は、渡鹿貝塚であった。

渡鹿堰上流左岸側に立ち、託麻台地の地形をよむ。井嶋玄蕃になったつもりで白川からの取水場所を考える。



大井手をはさんで、緑豊かな水道端公園と宮の本公園があり、市民の憩いの場になっている。ここはもと、通潤橋の名付け親である眞野源之助奉行の屋敷跡である。

一の井手取り入れ口。現在、一の井手は、一部、市の都市計画道路になりながらも、出水・画図町方面の水田を潤す。



一の井手取り入れ口から少し下った右岸側に「神風連史跡 熊本鎮台司令長官 種田政明旧居跡」の標柱がある。側面に「種田は鹿児島出身の陸軍少将で、明治九年（1876）十月二十四日深夜、神風連の高津運記率いる一隊に邸宅を襲撃され落命した。時に三十八歳であった。愛妾小勝が東京の家許に送った『ダンナハ イケナイ ワタシハテキズ』という電文の話は有名である」と記されている。この神風連襲撃の様子は、徳富蘆花の「恐ろしき一夜」に記されている。彼が育った大江の家は、この大井手をはさんで目と鼻の先であった。



大井手の水は、銀座橋上流、「井手の口」でまた白川にもどる。ここは、森鷗外の著書「阿部一族」の舞台にもなっている。

二の井手、三の井手取り入れ口。



寺子屋わくわくランド講座

平成十七年台風十四号
宮崎水害を教訓として

日時 平成十八年三月十一日(土)
講師 熊本大学工学部環境システム工学科
大本 照憲 教授
場所 白川わくわくランド
参加者 十五名

平成十七年度最後のわくわく講座を実施しました。十七年度のテーマは「災害と防災」でしたが、平成十七年九月九州南部に多大な被害をもたらした台風十四号のデータをもとに防災のあり方を考えるものでした。

自然災害の基礎知識として示された「自然災害の種類別、期間別の年平均被災者数」のグラフから地震・干ばつ・地滑りなどに比べ、洪水は最も甚大な被害をもたらしていることがわかります。このような豪雨災害に対して安全で安心できる社会の形成を図るため、ハザードマップの作成・公表が義務付けられています。現在のそれはまだまだ多くの改善すべき点があるそうです。

また、閲覧した32.4%の住民によるハザードマップに関する指摘事項によると、実際の被害状況や避難経路を把握することが難しいと多くの住民が

を受けた宮崎県大淀川流域の住民を対象に水害アンケートを実施し、その結果をもとに中間報告の形で話が進みました。



平常時に熟読・保管し災害時に活用できるようにしておくべきハザードマップの閲覧・保管は、対象者の32.4%に止まり、存在を全く知らなかった住民は全体の44.8%半数近くにのぼっているということでした。このことから洪水ハザードマップに対する住民の関心度は低くもつと公表のあり方を検討する必要がありますと話されました。

最後に、寺田寅彦の「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉や、「安全は安心とともに崩壊する」という言葉を紹介されました。今後は危機意識の欠如・情報収集の遅れ・情報伝達の不徹底・連携の弱体など多くの課題を解決しながら、行政任せではなく地域の力や連携しながら災害に対応することが必要であるということでした。

白川わくわくランド寺子屋

春の立野の自然観察と
「ソニーセミコンダクタ九州」見学

期日 平成十八年五月十三日土曜日
参加者 十七名(小学四年生・中学生)

立野の自然と中流域の水保全が今回の学習です。水保全については、「ソニーセミコンダクタ九州(株)熊本テクノロジセンター」工場見学のおかげで、環境に配慮した多様な取り組みを紹介してもらいました。

まず、この工場が白川中流域にあり、半導体生産に多量の水を使用する関係から「地下水涵養事業」に二〇〇三年から取り組んでいるということでした。継続した活動を行うことによりこの三年間の平均では、使用量と同程度の地下水涵養の実績をあげているということです。その方法は、休耕田の夏場の水張り・稲刈り後の秋の水張りだそうです。また、汚染防止・廃棄物削減・省エネルギーなど「環境No.1」を目指した取り組みや施設を、工場の随所に観ることができました。



雨の日の立野。地質検査のためのトンネルへの道も水にふさがれた



「水田を利用した地下水涵養の仕組み」の模型を見ながら会社の人の説明を受ける。

川の豆知識 9 避難勧告と避難指示

災害発生の危険がある場合や災害時に市町村長から発令される。

避難勧告・・・避難のための立ち退きを勧め、促すもの

避難指示・・・避難の危険が目前に切迫した場合に発令される。避難勧告より拘束力が強い。勧告・指示に従わなかった人に対する強制権や罰則規定はない。強制的避難命令は違反者に罰則あり。勧告・指示・退去命令の根拠となる法律は災害対策基本法など。